

## 場面の様子を想像しながら 「読む力」「書く力」をつけるために

三年(下) 一 場面の様子を想像しながら読む

「ちいちゃんのかげおくり」(十一時間)



一 「書くこと」を読みの中に取り込んで子どもたちは、この物語を読んで「ちいちゃん」が死んでしまったて悲しい。」という初発の感想をもつでしょう。この単元では、その感想を深めるために読みの手だてをどうするかが大切です。そして、感想を深めることにより子どもに「読む力」「書く力」をつけたいと思います。

今回の学習では、家族の人に学んだことを手紙で伝えるという構想を立てました。家族の人に、まずはあらすじを伝えなければなりません。文章全体をとらえる力が十分でない三年生には、あらすじをまとめる方略を示すことが必要です。これが、「読む力」「書く力」になります。また、初発の感想を深めるために、叙述をもとにした理由を伴う感想を書かせることを目的として読ませました。このことで、文章に書かれていることを、自分のものとして想像することができず。さらに、豊かな読みのために、子どもが注意を向けにくい部分に焦点を当てたり、子どもとは違った読み方について考えさせたりしました。

### 二 あらすじを読み取る

「く」をした「だれ」という形で各場面をまとめましょう。

第一の場面を読んで、中心人物は「ちいちゃん」であることを確認します。次に出来事をまとめます。中心人物を文の最後におき、「かげおくりをしたちいちゃん」という形にします。そして、場面の特徴を書き加えます。「お父さんとお母さんとお兄ちゃんといっしょにかげおくりをしたちいちゃん」となります。

ほかの場面は次のとおりです。

空しゅうで家族とはぐれたちいちゃん

ぼつ空しゅうの中、一人で家族をまつちいちゃん

死ぬことでしか家族に会えなかったちいちゃん

ちいちゃんの命が消えた場所で遊ぶ子どもたち

しかし、これらの文をそのままつけてもあらすじにはなりません。そこで、どのようにして文章にするのかを学びます。

家族に伝える手紙の初めの部分は教え、第一場面のあらすじの内容は、いっしょに考えます。その際、各場面の特徴を書いた文をただつなげるだけでなく、言葉を補ったり、修正したりして、あらすじを表す文章にしてい

くことを指導します。この場面からは、自分で考えさせます。書けた人から持つてこさせ、適切に書いてきた子は黒板に書かせ、分からない子の参考に使えます。次のような感じですよ。

手紙の例(前半)

私は、学校で「ちいちゃんのかげおくり」という物語を読みました。そこで学んだことを書きます。

この物語は、次のような内容です。

「せんそうがあったときのお話です。ちいちゃんはお父さんとお母さんとお兄ちゃんと家族四人でかげおくりをします。とても幸せです。でも、お父さんはせんそうに行き、空しゅうも始まり、かげおくりもできなくなってきました。

ある日空しゅうがあり、ちいちゃんは、家族とはぐれ、ひとりぼっちになってしまいました。…」

### 三 ちいちゃんの心情を考える

この場面では「ちいちゃんは幸せか？」考えましょう。

「家族といっしょにかげおくりをしているから幸せだ。」と答えは返ってきます。この場面も考えさせます。

「空しゅうで家族と別れたから不幸せ。」「家に帰っても家は焼け落ちており家族もいないから、さらに不幸せになってくる。」「ちいちゃんに寄り添う読みが出てきます。」「場面で、」もし、ちいちゃんがこの違うた行動をとれば不幸せにならないかもしれないという場所を探して「らん。」「と問うて。」「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの。」「ちいちゃんはず、深くうなずきました。」「を挙げてきます。」

そこで、「そうだね。おばさんについていけば死なずにすんで幸せになったかもしれないのだね。」「と問えば、」「家族といつしよじゃあないから幸せではない。」「おばさんについていても、家族に会えないから幸せになれない。」「と読みは深まってきます。」

「家族に会いたいがらひとりぼっちでもそこに残った。」「というちいちゃんの強い意志も読み取れます。」

そして、の場面です。「ちいちゃんが会いたくてたまらなかつた家族と会えたことで幸せになった」ことを確認し、「だから、みんなも読んでいてうれしく思ったよね。」「と問えば、「死ななければ、家族に会えなかつたから悲しい。」「生きていれば、家族に会いたいという願いがかなえられないなんて、ひどい。」「という答えが返ってきます。ちいちゃんに寄り添う読みから、読者とし

## 五 手紙を完成させる

あらすじのあとに続けて手紙を書きます。テーマは、「心に残ったこと」です。「ちいちゃんの心情「や」の場面」で学んだことを生かして書きます。場面を選び、読んだ人が納得できるように詳しく理由を書かれます。そして、全体の感想を書き、ひと言添えて手紙を完成させます。

手紙の例(後半)

わたしがいちばん心に残ったのは、

「夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空に消えました。」  
 というところです。

なぜなら、やっと家族に会えたのに、ちいちゃんが死んでしまうからです。お父さんはせんそうに行き、お母さんとお兄ちゃんとはなればなれになり、ちいちゃんはひとりぼっちになりました。でも、家族に会いたいちいちゃんは、さびしさにまけないで家族をまちつづけました。わたしは、「ちいちゃん、ぜったいにお母ちゃんに会えるよ。がんばれ!」とおうえんしました。でも、会えたのは天国なんてあんまりだと思いました。なみだがこぼれそうになりました。

ての客観的な読み、「悲しさの理由」を読み取ります。

## 四 の場面を読む

ある人が、の場面がいちばん心に残った。」「思いました。どうしてそう思ったのか理由を考えましょう。

プリントを渡し、( )の中を埋めさせます。考えを発表させ、新たな観点からの読みについて考えさせます。

の場面がいちばん心に残りました。から  
 の場面はせんそうの時代が書かれていました。

しかし、もし、ちいちゃんが生きていれば、今この公園で(自分の子どもと遊んでいるかもしれない)。もし、せんそうがなければ、(家族とこの公園にいられるかもしれない)。そう考えるとかなしくなります。

そして、せんそうによって、ちいちゃんだけでなく、多くの人が(命)をうばわれてしまったことを強く感じ、とてもかなしくなりました。

さい後に「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、「せんそうはいやだな。」と思いました。それは、もしせんそうがなかったら、ちいちゃんは家族と幸せにくらしつづけることができたらと思うからです。そして、生きていれば、家族で、何度も楽しくかけおくりをすることができたでしょう。

ぜひ、○○さんも「ちいちゃんのかげおくり」を読んでください。そして、よろしかったら感想を聞かせてください。

## 六 評価について

・登場人物の気持ちや場面の状況とかかわらせて、叙述をもとに想像しながら読み、感想を深めているか。  
 ・手紙に「読んで心に残った理由」を書く場面では、「の場面で家族といつしよだったちいちゃんが、家族と離れ、やっとみんなに会えたのが天国だったからです。」「というように複数の場面を関連づけることによって感想を深めているか。